



好学愛知 自律敬愛 質実剛健

鶴鳥イ言

鹿児島県立鶴丸高等学校

〒890-8502 鹿児島市薬師二丁目1番1号

TEL 099-251-7387 FAX 099-255-3433

http://www.edu.pref.kagoshima.jp/sh/Tsurumaru/top.html

かえらざる一年

理科 山下 啓

鶴丸高校に着任した日。駐輪場で会った生徒の清々しい挨拶、校内に響いていた吹奏楽部の音と応援団の声を、今でもはっきりと覚えている。それから6年間、甲鶴戦の応援練習、部活動の声に包まれた賑やかな鶴丸の春休みに馴染んできた。8年目の今年の春休みは静かだった。

3月の休校中に、初めての挑戦をした。YouTube用の動画作成である。復習考査に向けて、自宅学習用の動画を作る。編集の技術はないので、カメラ固定の一回勝負。生物実験室の四面黒板の一面に板書し撮影してみる。「小さすぎる。」「やり直し。範囲を一面の三分の二に決める。」「書き切れない。」「内容を精選して何とか板書を終え、誰もいない教室で解説する。」「照れくさい。」「試しに撮影してみると立ち位置が悪い。カメラの向きを変えて画面を見ながら撮影すると黒板が鏡文字。」「なぜだ?」「撮影した動画を反転できない。画面を見ながらの撮影は諦めた。一発勝負の本番。緊張する。言葉に詰まる。やり直し。すぐにできると思っていたが、再生時間9分の動画を作成するのに2時間近くかかった。YouTubeにアップロードして開いてみる。パソコンの画面上で自分がつくった動画が再生される。:ちよつと嬉しい。

動画を作成してインターネットに上げるといったことにはあまり興味もなく、当然そのやり方も全く知らない。ましてや自分の授業を撮影して公開するなんて想像したことともなかった。今回の休校が無ければ、今もそうだったと思う。必要に迫られての取り組みではあったが、一連の作業を経験できた良い機会であった。やり方・楽しさもなんとなくわかり、その後、さらにいくつかの動画を作成しホームページに掲載した。「出来なかったことが出来るようになる。」そんな単純な喜びも味わうことが出来た。

4月23日から再びの休校。鶴丸高校ホームページに「鶴丸高校 自学自習サポート教材」のページが新設され、各教科が工夫しながら情報を掲載していく。昨年度は存在していなかった「ホームページ上の教材」は当然、今も閲覧可能である。

5月27日、生徒総会が行われた。鶴丸の生徒総会と言え「三三議案」だが、今回は放送での実施となり少し残念に思っていたところに生徒会の工夫が光った。ラジオ形式の質問コーナー。「袖まくりのルール」から「池のカメの名前」まで、多様な質疑応答がテンポよく行われ、教室で聴いている生徒を惹きつけた。

5月13日、県高校総体の中止が決まった。チームで作る自分たちの引退試合やリモートによる大会など、各部・各競技が工夫しながら三年生を送り出していく。6月13日、バスケットボールはメモリアルマッチを開催。8分ゲーム・二試合。総体とは異なる雰囲気での試合であったが、選手一人一人の1プレイ1シュートが強く印象に残った。

5月11日の休校解除からまもなく二ヶ月。放課後の校内も賑やかに、徐々に日常が戻ってきた。しかしながらまだまだ制限は多く、これからの様々な変更や中止が予想される。それでも、やれることはたくさんある。まだまだ前半ば。鶴丸生の力を思う存分に発揮して、いろんなことを試し、工夫しながら、今年一年の学校生活をいつも以上に盛り上げていって欲しい。♪ばあばあー♪ばあばあー♪ばあばあー♪ばあばあー♪ 外からアフリカンシンフォニーの一節が聞こえてくる。「なんでコレを練習しているのさ?」また、何か新しいことが起こる予感がして、元気があふれている。



7月の行事予定

Table with 6 columns: 月, 日, 曜日, 行事, 校時, 時間(授業等), 学年. Contains monthly event schedule from July 1st to 31st.

1年生の集団読書より

初めての集団読書大成功

6月22日(月)に1年生にとって初めてのとなる集団読書が行われた。先月の2・3年生の集団読書の進め方を見学した各クラスのLHR委員を中心に中身の濃い集団読書が行われ、読んだ課題図書について議論し合う本校の特色ある集団読書の意義を学んだ様子であった。



集団読書の様子

1年生の読書感想文より

課題図書『キネマの神様』

17 R 岩元 優那

「この本の題名である『キネマの神様』。歩の父ゴウと映画評論家ローズ・パッドが人生最良とする映画『ニュー・シネマ・パラダイス』。キネマもシネマもどちらも映画、映画館を示すにも関わらず、この作品ではどちらも使われている。現在人々の間でよく使われている『シネマ』に加え、『キネマ』という語句をあえて使用したのはなぜだろうか。その理由として考えられるは...。と言いたいところだが、この考え方について皆さんに理解してもらおうにはこの二つの詞について知ってもらう必要がある。

キネマは主に大正時代に用いられて、少し遅れて昭和時代にシネマという言葉へ変化していき、今ではほとんどシネマと言われるようになった。これらの知識を頭に入れたうえで、この作

品を読み進めていくとどうだろうか。ここからは先ほどの続き。「キネマ」と「シネマ」の言葉をあえて二つとも使った理由として考えられるのは、この物語の中で何度も強調され、キーワードとなっている「最先端の映画館と昔ながらの劇場の共存」を強調するためのことだ。物語の中の設定に言葉をあえてはめてみると、昔から地元の人々に愛される名画座で『キネマの神様』を見守られるから映画『ニュー・シネマ・パラダイス』を見ることになる。つまり、キネマとシネマを上手く使い分けながら人々に愛され続けている「映画」という存在をより引き立たせることができるのだ。作者が作り出す現実味のある世界観と、手紙を通して登場人物たちのやり取りは、私たち読者を力強く話の中に引き込む。ある人には昔ながらの映画館を思い出させ、ある人には初めて知る「劇場」の存在を細かく想像させる。そして最後に皆さんもきこうと思うだろう。「映画はやはり素晴らしい」と...

13 R 城井 珠伎

映画とは不思議な娯楽だと思ふ。たくさん人の人が同じ方向を向き同じ画面を見つめ、時を共有する。映画館で映画を観た後、声に出して感想を話しはしなくても、同じ空間にいる人全てで同じ気持ち共有している感覚が私は好きだ。この本の主人公である丸山は、映画を旅に例えているが、私もその通りだと思ふ。同じ列車に乗った人々で同じ車窓からの景色を眺め、言葉にはしなくても同じ思い出を分かち合う。その思い出をそれぞれの胸に抱え、それぞれの日常へと戻っていくのだ。とはいっても、この本の登場人物たちの映画への造詣は、私とは比べものにならないほど深い。皆、深く映画を愛しているし、映画によって人生が変えられている。そう、まるでキネマの神様がいついてるかのように。

特に、歩の父親と映画評論家のリチャード・キャバレル。この物語に則っているならゴウとローズ・パッドの映画への愛は、並大抵のものではない。作中、二人の関係はライバルや友人として描かれる。私は、二人の関係を表すのにふさわしい言葉は「同志」と思う。インターネットを通じて出会った二人の魂が共鳴したのは、二人とも心の底から映画

とともに生きてきたからだ。私にも大切な趣味があり、インターネットを通じて出会った同じ趣味を持つ友人たちがいる。彼らと話すときの、同じ志をもつ仲間としか味わえない高揚感には私にとってもかけがえのないものだ。時には意見が食い違い議論になることもあるが、そのやり取りも楽しむことができるのは、お互いにそれを深く愛しているということを知っているからだ。そして、深い情熱は必ず誰かの琴線に触れるものだ。登場人物たちの映画への愛を感じることで、何か映画を観たわけでもないのに私は昨日より確実に映画を愛している。次に映画を観る時、私は今までより更に映画という芸術を愛するだろう。私もいつか、キネマの神様に愛してもらいたい。

新生徒会長に聞く

令和2年度後期の新生徒会長に選ばれた23Rの西原侑寿さんに生徒会活動についてインタビューを行った。

Q「生徒会長に立候補したのはなぜですか。」

A「新型」コロナウィルスの影響で、できないことが増えてしまいました。しかし、こういう時だからこそできることをやっていきたいと思います。また、1年生の頃から生徒会執行部として活動させてもらったのですが、生徒会長にならないとできないことがあると実感したからです。」

A「新型」コロナウィルスの影響で、今まで通りで済まないことがあると思います。だからこそ、全校生徒の意見を聞きながら柔軟に対応できる生徒会でありたいと思います。コロナだったからできなかった...ではなくて、コロナだからこそできることがあると考えたいですね。」

Q「鶴丸高校の生徒会活動の特徴は何だと思いますか。」

A「中学校でも生徒会活動をしていただのですが、中学校では先生方がしていたようなことも主体的に生徒会が取り組むことができると思います。やりたいと思ったことができるのが鶴丸の生徒会だと思っております。新生徒会執行部でもいろいろなことに取り組んでいきたいです。」



新生徒会長の西原侑寿さん

↑発行時の予定です。変更にご注意してください。